

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	越前市児童発達支援センターなないろ(早期支援教室)		
○保護者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和8年1月22日		～ 令和8年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	さまざまな専門職(言語聴覚士・保育士・理学療法士)がG保育を担当する体制となっており、多面的にお子さんの特性や課題を捉えたり、お子さんに合った支援方法を考えたりすることができる。	・担当職員全員で療育を振り返ってお子さんの姿や反省を共有したり、次の療育内容に向けた意見を出し合って決めている。 ・個別支援計画立案の際は、職員全員で検討している。 ・支障等について話しやすい雰囲気づくりをしている。	・学齢期のお子さんの課題を丁寧に捉え、遊びや活動等を提供することにより、お子さんが自己肯定感等を高め、ウェルビーイングを実現していく力を培えるような支援に努めます。 ・お子さんの思いを尊重しながら課題が固定化しないように工夫したり、お子さんの特性等に合った遊びを提供できているかを丁寧に考えます。
2	こどもの成長や発達の基盤となる親子関係や家庭生活を安定・充実させるために家族に寄り添った丁寧な支援を心がけている。	・親子通所であるため、お子さんの活動の行動を確認しながら、その理由や適切な関わり方を都度、保護者と共有できる。 ・お子さんへの理解につながるようペアレントトレーニング等の学習会を実施し、家庭で取り組めそうな具体的な目標等と一緒に考えている。 ・保護者のご負担軽減のために、学習会は療育に来所日に設定している。 ・保護者が交流できる機会(なないろカフェ等)を実施している。	・ご家族の思いを丁寧に聴取し、ご家族自身のエンパワメントを前提とした支援を今後も心がけます。
3	職員の資質向上のため、研修を積極的に受講している。	・職員体制を調整し、外部研修を受けられるようにしている。 ・研修受講後は、その内容を職員全員に共有し、療育に反映するようにしている。	・今後も積極的な研修受講等を通じて、支援の質の向上に努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学齢期の支援について、改善の余地がある。	・放課後等デイサービスを提供し始めて3年目であり、さらに学齢期の課題や療育に関する学びを深める必要がある。 ・フォーマルアセスメントについて要検討である。	・お子さんの思いの尊重を大切にしながら、「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」の5領域の視点や4つの基本活動を適切に組み合わせた活動を提供できるよう努めます。 ・学齢期の基礎調査票をつけていただき、お子さんの行動について把握できるようにします。
2	学齢期のお子さんが参加しやすい行事等やきょうだいを含めた支援が不十分なところがある。	・学齢期のお子さんの利用が増えている。 ・令和7年度は通所児親の会こじかの会の行事で親子(きょうだいも含む)で参加できる行事を年1回設けたが、幼児期のお子さんに合うような内容となりやすい。	・必要性やその内容等について、検討していきます。
3	事故対応や災害対応等の緊急時の対応マニュアルを整え、訓練も行っているが、実際の緊急事態が起こった際によりスムーズに対応できるよう備えが必要と考える。	・マニュアルは情報量が多く、実際に対応する際にスムーズに対応できない可能性がある。	・マニュアルの内容について、職員への周知や理解に努めます。 ・緊急時をより想定した訓練を実施します。 ・保護者に対しては、必要な情報をわかりやすく整理して伝えるようにします。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 越前市児童発達支援センターなないろ(早期支援教室)

公表日 令和8年3月18日

利用児童数

13

回収数

13

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11		2		・着替えのスペースは使用したことがないが、狭くないのか少し気になります。	着替えが必要な際には、適切な広さを確保するよう努めます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12	1				人員配置基準以上のスタッフを配置を継続し、丁寧な支援を心がけます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12	1				適切な構造化等の環境づくりやお子さんの特性に応じた専門性のある支援をしたいと考えております。改善できるようご意見をお聞かせいただければ幸いです。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12		1			
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12		1		こどもに合った声かけをいつもしていた だけ、ありがとうございます。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11		1	1		放課後等デイサービスガイドラインがあることやガイドラインに基づいて個別支援計画を作成していることについて、オリエンテーションや個別面談の際により丁寧に説明します。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12		1			同じ活動が数回続くことがありますが、経験の積み上げやその回毎のねらいを考えていますので、療育前の活動説明時にお伝えします。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	2	5	1		なないろに通われているお子さんの多くが地域の児童クラブ等を利用されているため、交流は特に行っていません。利用されていないお子さんが地域での交流を希望される場合、相談支援専門員と連携しながら社会資源等を一緒に考えさせていただきますので、お気軽にご相談ください。
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13						
13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	13						
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13						
15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	13						
16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13						

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	12		1		通所時にお子さんの様子や関わり方について、お子さんや保護者に寄り添い、共感しながらお伝えすることを心がけています。ご意見等は真摯に受け止め、改善しますので、ぜひお聞かせください。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	4		1	なないろカフェ(保護者同士の茶話会)等を実施していますので、ご都合に合わせてぜひご参加ください。また、各グループで学習会を実施する際は、保護者同士がつながりやすいような雰囲気づくりをします。きょうだい同士の交流については、通所児親の会こじかの会にて親子・きょうだいで参加できる行事を企画開催しています。放課後等デイサービスご利用の方達も参加しやすい内容を検討したいと思います。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12		1		保護者のご都合に合わせて、通所日とは別に面談の機会を設けています。ご希望がございましたら職員にお気軽にお声かけください。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10	2	1		ホームページやInstagramにつながる二次元コードを各部屋や掲示板にて案内していますので、ぜひご覧ください。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13				
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	11		1	1	お子さんの安心感、思いやニーズを大切に考えております。楽しめる内容を取り入れたり、活動に対する気持ちを確認します。ご家庭でお子さんになないろのことをお話することがありましたら、教えていただくと幸いです。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12		1		・毎日違う課題をしているので、いい刺激になり楽しく通っています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	13				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		越前市児童発達支援センターなないろ(早期支援教室)				公表日	令和8年3月18日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1		活動によっては、スペースが狭く感じられることがあるため、部屋を移動する等の対応をする。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・構造化されているため、こどもが安心して過ごしやすい環境になっていると思う。	構造化について学んだり、環境設定について改善の余地はないか検討したりします。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6		外部評価は行ってない旨を重要事項説明書に記載しています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6				
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・放課後等デイサービス計画を作成し、アドバイスをもらうことでいろいろな視点で計画を立案でき、よりこどもの特性や課題に沿った計画になっている。 ・支援者全員で話し合い確認する時間が必ず設けられている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	・学齢児のフォーマルなアセスメントは、決められたものはない。医療機関での評価結果と療育、家庭状況から評価していることが多い。	医療機関で受けたフォーマルなアセスメント等を把握します。また、子育てファイルふくいっ子の基礎調査票の活用を検討します。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6				
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			・打ち合わせを行い、チームで情報を統一して支援できていると思う。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			療育の反省の時間を確保し、次回の活動に反映できるように努めます。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			・やや記録や反省の時間が取れないことはある。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6				
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	2			自立支援と日常生活充実のための活動、創作活動、余暇の提供などの4つの基本活動を組み合わせた支援を考えます。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			・ひとりひとりのこどもに合わせた選択項目に変えるなどの工夫がされている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6				
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			・医療とは文書にて連携している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	2		・年間計画などの共有はしていない。 ・年1～2回、必要に応じて連携会議をする。	必要に応じて、保護者を通じて年間計画や行事予定等、通所日の情報共有を行います。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6				
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	3		・対象児がまだいない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。					
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		6		・交流する場は設けていない。	なないろに通われているお子さんの多くが地域の児童クラブ等を利用し、他のこどもと活動しているため、交流は特に行っていません。必要に応じて保育所等訪問支援をご利用いただき、他児との活動がよりよくなるよう支援します。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	3			結果を職員全員に共有することを継続します。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6				
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6			・家族支援プログラムを導入しており、その他、研修会等を行っている		
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6					

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6				
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6				
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	6			・兄弟同士で交流する機会はない ・クリスマス会等、交流の場を設けている ・年齢になると、行事への参加は少ないのが現状	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6				
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6				
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6				
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3			療育研修会などの際に、関係者や市民に見学をしていただける機会を今後も設けます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6				
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3	3			支援する上で大切な情報については、情報収集と職員への周知に努めます。てんかん・服薬・アレルギーのことも把握できるよう状況調に記載できるように改善します。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	3			・おやつを提供することはあるが、保護者からの聞き取りのみ
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6				
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6				
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6				
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6				
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6					